

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おんぷ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26世帯	(回答者数) 23世帯
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	常勤、非常勤で各専門職がいる。皆で情報共有をはかっているため、児や保護者に対し専門的な支援が密に行える。	活動前後での情報共有を徹底しており、必要な支援や対応を状況に合わせ提供することができる。	様々な視点から児童や保護者をサポートできるよう、支援内容や情報収集等を複数で取り組み、全職員誰が対応しても変わらぬ関わりができる体制づくりを継続する。
2	学校職員や関係機関と定期的に情報共有を行っている	活動報告書やこども理解表を作成し学校との情報共有を積極的に行っている。また相談支援員や保護者様を介し関係機関への情報提供や収集を行っている。	情報共有した内容をプログラムに落とし込み、内容や結果、変化点など随時療育に生かせるように取り組む。
3	SNSやおたよりにて活動内容や様子が伝わるよう努めている	アプリでその日の活動内容の報告に加え、毎週1～2回の頻度でSNSの更新を行い事業所内での児童たちの様子や取り組んだ内容を伝えている。また送迎時に利用保護者へ当日の活動内容や近況の報告を受けるようコミュニケーションを図っている。	アプリでの活動報告では写真や動画など伝えきれないため、SNSの更新頻度を保ち、事業所内での様子を引き続きお伝えしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースに限りがある	集団での活動や内容によって狭いと感じる場面がある。集団での自由遊びなど自由度が高い遊びでは他者やスイングフレームなど接触によるケガのリスクがある	限られた空間の中で活動内容の工夫や児の特性に応じた職員の配置を行い、安全面に配慮した活動の提供を行っていく。
2	学校や地域の方々との活動を通じた交流がない	感染症の影響により学校や他事業所利用児など、地域の方々との交流する機会を設けることができていない	インクルージョンという点で今後児童たちがより過ごしやすい環境づくりができるよう、事業所主体で地域の方々や他事業所とのイベントの開催や地元イベントへの参加など積極的に行うことを考えていく。
3	保護者会の開催が今年度は少なかった	イベントの開催にあたり定期で利用している児童の活動を変更し対応することになるため、最小限の頻度での開催となった。	事業所イベントを通じて保護者間の連携を図ることで利用児童や保護者の交流の場となる。交流が盛んになることで利用児童、ご家族や事業所スタッフの連携や交流の機会となるため、開催頻度や開催場所を新たに検討したい。